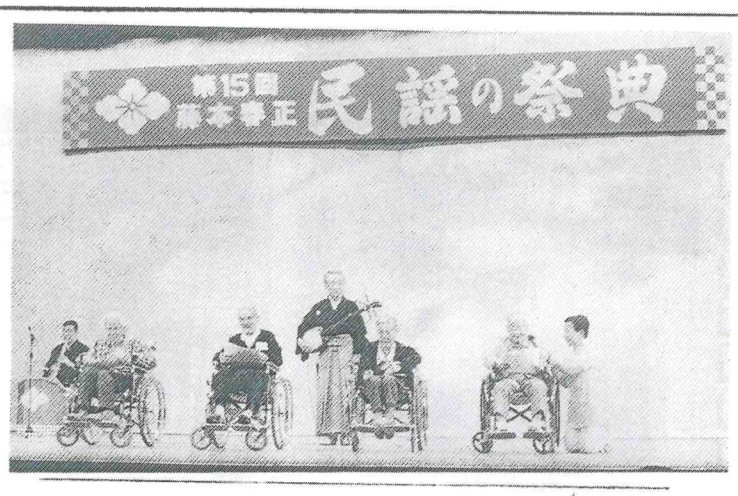
あすなろだより

発行
あすなろ園
家族会
倉敷市玉島勇崎
しあわせの里
あすなろ園内
☎（086）
528－3110

玉島文化センター大ホールに入園者が出演



五月二十三日、玉島文化センターで開催された第十五回民謡発表会「民謡の祭典」に、あすなろ園の民謡クラブで練習している佐藤正さん、松香直さん、井上オサエさん、熊野繁野さんの四人が、千人の観衆の前でステージに上がり日頃の練習の成果を披露した。

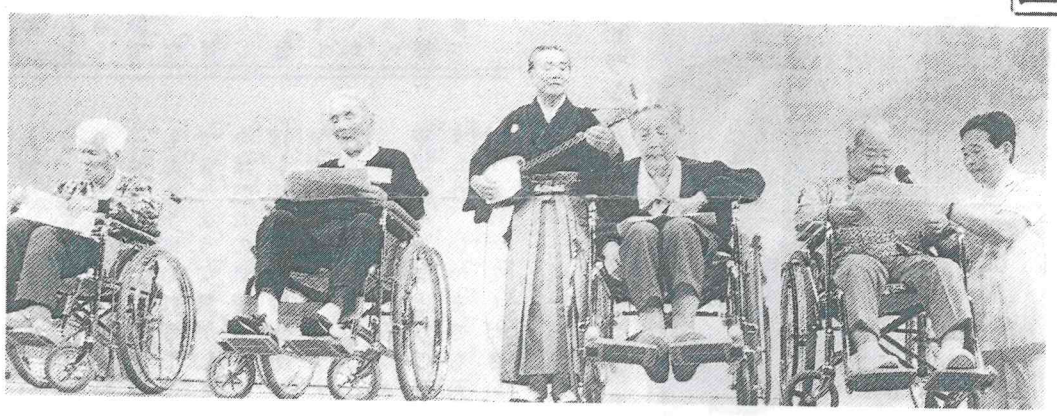
佐藤さんは草津節、松香さんは武田節、井上さんは、炭鉱節、熊野さんは黒田節を、藤本春正先生の三味線の伴奏に合わせ、声高らかに歌い上げた。

幕があがると四人が車椅子で出場。「あすなろ園の入園者です」と紹介されると、ひときわ大きな拍手がわき上がり、歌にあわせて手拍子が会場いっぱいになりひびいた。

会場には、バスでかけつけた応援の入園者も、感激して泣いている人もいた。

歌い終わった井上さんは、ステージのそでで、「こんな舞台に上がったのは生まれて初めて。幕があくと目の前に人が一ぱいこちらを見ており、びっくりした。最後まで歌えてよかった」と興奮ぎみに話していた。

特別養護老人ホームの入園者が、この地域の音楽会に出場できるのは画期的なこと。平素民謡クラブで練習したり、毎日のリハビリテイションの成果の現れであろう。



玉島文化センターで謡う入園者

倉敷　新渓園で明珠之会に参加

六月五日・六日、倉敷美観地区にある新渓園で、明珠之会作品展示・発表会が開催された。

これはあすなろ園の入園者やディ・サービスセンター利用者が陶芸教室（講師川田良子先生）で作った作品を展示したり、ディの茶道教室（王子昌子先生）の発表会として開催されたもの。

新装なった新渓園では皿やコーヒーカップ等の陶芸作品が約二百点展示され、中央の床には九十才以上の四人の作品が並び目を引いた。

会場には、ディ・サービス利用者がバスで訪れ、自分の作品を見つけて歓声を上げたり、茶席で静かにお茶を楽しんだ。また協賛出品した、生け花展に見入った。

二日間で約千人の入場者でにぎわった。

この会を主宰した川田先生は、「お年寄りの方々の心と、ボランティアの皆さんの気持ちが一つになって、素晴らしい会が開催されたことを心から感謝します。」と話されていた。

↑　展示された陶芸に見入るデイ・サービス利用者

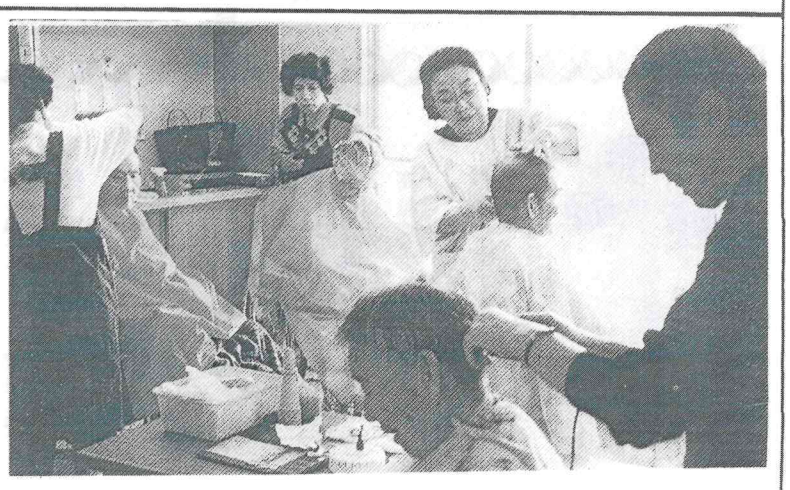
遠い島より　国際親善

歓迎のあいさつする佐藤正さん

六月十五日、世界青年交流　協会の招聘で、東南アジアのブルネイから教員、大学生一行三十人があすなろ園を訪　れた。

一行は日本へ二十日間滞在し、東京から　広島までの主な文化、教育、福祉施設等をホームステーをしながら日本との親善を深めるもの。

あすなろ園では、入園者がつくった「金魚の貼絵のウチワ」がプレゼントされ、両国の歌の交歓が行われた。



↑　ボランティアで入園者の頭を整髪する各美容院の皆さん

ボランティアの皆さん　ありがとうございました

奉仕回数に関係なく記載させていただきました。

自平成五年二月二十一日
至平成五年七月十日
（順不同敬称略）

青木信子　赤壁八重子　浅野須美子　井頭ミユキ　井川直子　岩堂正雄　岡　照恵　小田春子　赤沢治子　小野シズコ　小野鶴子　中藤匡美　西井住子　西山ヒサエ　若狭光子　渡辺貞子　貫名美子　仲　桂子　畑田麻佐子　原田悦子　原田清香　原田千穂子　原田智子　原田昌子　原田雅子　平岩イソミ　平田月子　平松幸子　平松淑子

真田奈緒子　清水輝子　白神　栄　沖川真弓　片岡桂恵　川本清子　甲谷幸子　小林鶴亀与　小室美枝　杉田直輝　宮原芳江　森本奈々　森分広子　横田　広　与田良恵　豊島道子　寺岡美穂　泊ヶ山和美

（若柳社中）
若柳静寿恵　富田澄子　鈴木二三子　中桐美子　佐貫和子　吉沢　琴　生峰　民　吉沢　毅

（てまりの会）
萩原良子　木科鈴子　大森多美子　今治隆子　横川幸子　国分淳子　戸抜美佐江　藤間睦美　酒井由美

（小野美容室）
（カトレア美容室）
（サロン・ド・パル）
（マサコB・S）
（ヘアーサロン　あかり）
バルーン・コウキ

「黒崎中学校生徒会の皆さん」人数が多いので各人の名前が記載出ません、ご了承ください。

ゲンキでよいしょ

五月十二日、あすなろ園で運動会が開催された。八幡保育園児との玉入れやボール蹴りに、年を忘れてハッスル。楽しいひとときをすごした。

↑　玉入れ、赤が勝つか、白が勝つか

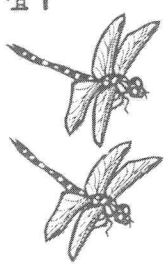
入園者と幼稚園児の玉ころがし

詩（旭清）入園者・秋山千代乃
絵（正峰）園　長・虫明　正雄

俳句歌壇

入園者　三石　政雄氏作

朝霜や野良仕事する嫁一人
鬼ヤンマ川面にとまり若夫婦
蛙達水の中でのすもう取り



「あすなろ園を訪問して」

黒崎中学生の作文より

二月四日、立志式を終えて私たちはボランティア活動に取り組み、老人ホーム「あすなろ園」を訪問させていただきました。私は、このような経験は初めてだったので、少し不安もありました。相手は、みんなお年寄りばかりでなにか体に障害を持つ人ばかりです。どんな話をすればいいのか、また、私に何ができるだろうかと思いました。そして、話すとなっても、やはりと惑いがありました。「こんにちは」と、おばあちゃんに話しかけると「こんにちは、よく来てくれたね」と笑顔で返してくれます。たった一言だったけどこの一言によって色々な話がでてきました。子供や孫、昔のころのこと。硬筆をしている間に話をしてくれました。あるおじいさんは、「木が足に落ちて歩けなくなった。」と言ってくれました。

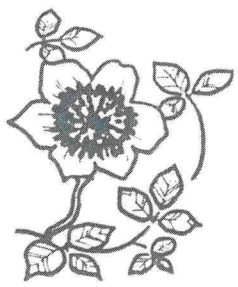
「今楽しいですか？」と言う質問に「日本はいいところで、福祉が充実しています。そのおかげで私もここまでやってこれました。楽しいですよ」この言葉は、強く心に残りました。あるおばあさんは、左の耳しか聞えないので、左の耳の近くで大きな声で「こんにちは」と言うと、私の手をにぎり、友達の手をにぎりはなそうとしません。そして、上下に手をふります。その時おばあちゃんはとても楽しそうにしていました。

私は、あすなろ園を訪問させていただいて本当によかったと思います。最後別れるときに、おばあさんが、かすかにみせた涙は今でも覚えています。その時私は、本当にうれしかったです。今日一日で、私は何か大きなものを手にいれることができたような気がします。今は感謝の気持ちでいっぱいです。機会があればまた訪問させていただきたいです。

あすなろ園のみなさん本当にありがとうございました。いつまでも元気でがんばってください。

ボランティア実習の黒崎中学生

じあわせの里へ



テッセン・孝行

『家族』

樋口　高子

「健康」というこの二文字のありがたさを再認識させられたのは、五年前のことです。

母が玄関先で転び大腿部複雑骨折という診断を受け、その日を境に寝たきり生活を送らなければならなくなった時のことでした。今まで大きな病気も怪我にも縁がなかった我が家に降って湧いたような大変ショックな突然の出来事でした。母が入院、そして父が入院と入退院を繰り返し、別々の病院で生活する父も母もお互いが気になり、母は体力が衰える一方で毎日洗濯物を取りに行く私の顔さえもすぐに誰なのか分からない状態になり、このままでは・・・と悩んでいた矢先、あすなろ園を紹介していただき父も母も揃って入園させていただくことになりました。

あれから一年と四ヶ月が過ぎた今、入園当初、こんなに元気になれるとは想像もつかなかった程健康を取り戻し今ではカラオケを歌ったり、民謡を習ったり母は車椅子を自分でこげるまでになりました。これも家庭的な雰囲気の中「寝たきりにさせない」という主旨のもと、木目細やかな介護のお蔭と心より感謝致しております。

父母がまだ元気だった頃、先で寝たきりになったら私が面倒をみてあげると約束していたにもかかわらず嫁の務めも怠った様でこれで良かったのだろうかと自問自答したことも正直言ってありました。　でもある日父が「お婆ちゃんはあのまま家に居たり、病院にいると今頃はボケているか死んでいたかもしれない。良い所へ入れてくれたお蔭で命拾いができた、有り難う」と言われた時、今まで胸につかえていたものがなくなった様な気がしました。できるだけ日曜日には面会に行き家のこと、孫のこと、ご近所のことなどで話がはずみます。父も母も孫が来てくれるのが一番嬉しい様で学校の様子など握り合った手にも力が入り、話がつきません。再び我が家にも笑い声が戻り離れて暮らしていても、いつまでも「家族」という絆を大切にしていこうと思っています。

櫛風の日々から

新入職員紹介

森永静二・・・柔道五段、体は厳ついが気はやさしい、いい男。

高越純子・・（看護婦）のんびり屋だがよく気のつく温かい人。

山本みち子・・（寮母）細い体に似合わず強い力。がんばっています。

藤沢美幸・・（事務員）コンピューターならまかせてね。誰にもやさしい人。

一陽来福

「別れる時におばあさんがかすかにみせた涙は今でも覚えています」このフレーズに私はワープロを打ちながら目頭があつくなってきました。中学生の女子が書いた、この一文一の中に真の福祉、真の教育を見た思いです。

人が生きてゆく時に幾多の『涙』に出会います。このおばあさんの『涙』を忘れないでいつか流すこの少女の涙が幸せ一杯の『涙』であって欲しいと思いつつ、このような企画を立てられた黒崎中学校の先生方に心より感謝致しております。

中藤　和雄